

第2回「文化芸術による復興推進コンソーシアム」運営委員会 議事要旨

1. 日 時 平成 24 年 10 月 30 日(火) 午前 10 時 30 分～午後 12 時 20 分

2. 会 場 東京都中小企業会館 8 階 C 会議室

3. 出席者 運営委員:

本 杉 省 三 委員長

小 松 弥 生 副委員長

荻 原 康 子 委員

関 裕 行 委員

田 澤 祐 一 委員

畑 中 裕 良 委員

半 田 昌 之 委員

松 本 辰 明 委員

渡 辺 聡 委員

(副委員長以下 50 音順)

参 与:

大 木 高 仁

その他の出席者:

舟 橋 徹 (文化庁 文化部 芸術文化課長)

門 岡 裕 一 (文化庁 文化部 芸術文化課 文化活動振興室長)

渡 辺 一 雄 (文化芸術による復興推進コンソーシアム アドバイザー)

大 和 滋 (文化芸術による復興推進コンソーシアム事務局 次長)

4. 議 事

(1) 本杉議長より開会の宣言があり、会議に先立ち事務局担当の松本委員から委員現員数9名、全員出席なので本会議が有効に成立している旨の報告があった。

(2) 議題1 「コンソーシアムロゴマーク」(案)について

事務局より、ロゴマークはいくつかの提案の中から事務局が選定したものであるとの説明があった。

・ロゴマークに記載されている、コンソーシアムの英語表記 **accr (Arts and Culture Consortium for Reconstruction)** は、ネイティブによるチェックを行ったかとの質問があり、事務局からは、ネイティブに依頼してチェックを行ったとの報告があった。

・ロゴマークのデザイナーは誰かとの質問があり、事務局から畑谷芳樹氏と橋居玲奈氏の共同デザインであるとの報告があった。

本杉議長が委員一同に諮ったところ全員異議なく承認され、今後、ホームページ、各種印刷物等、各方面でこのロゴマークを活用していくことになった。

(3) 議題2 「文化芸術による復興推進員」について

事務局より、文化芸術による復興推進員連絡会議の実施計画について報告が行われた。

・復興推進員連絡会議は公開し、議事要旨についてもホームページ等において公開した方がよいと

の意見がだされた。

- ・事務局からは、11月下旬及び来年2月に東北3県において開催される復興推進員連絡会議については、運営委員の皆様にも各1回程度ご出席いただきたいとの要請があった。

(4) 議題3 「調査研究会」について

事務局より今年度の「調査研究」の事業内容と進行状況が報告された。

- ・調査研究臨時委員の役割についての質問があり、事務局より、臨時委員は文化芸術による復興推進活動に実績のある行政・芸術団体等から選出し、相互支援活動、共助についての事例報告をお願いするとの説明があった。
- ・復興推進員はコンソーシアムとして委嘱しているが、調査研究委員の位置づけはどうかとの質問があり、事務局から、調査研究委員についてもコンソーシアムとして委嘱し、文化芸術による復興推進に関し専門的立場から調査研究、分析し、提言等をいただくとの説明があった。
- ・調査研究実施要領の表題に「心の復興」という語句が入っているがどういう意味かとの質問があり、文化庁 文化活動振興室長より、事務局との委託契約の事業名には、「心の復興」という語句が入っているが、調査研究の実施要領には入れなくてもよいとの説明があった。
- ・民間のイニシアティブについても取り上げ、フォーカスを当てることも検討いただきたいとの意見があり、事務局から民間の活動も調査研究の検討課題の中に取り入れていく方向であるとの説明があった。

(5) 議題4 「共催名義等の使用承認事務取扱要領」について

事務局より「共催名義等の使用承認事務取扱要領」については、第1案と第2案があり、それぞれについての説明が行われた。

- ・本杉議長が、第2案を採用し、第2条(用語の定義)と第5条(使用承認等の通知)を修正し、承認については委員長と副委員長に一任いただきたい旨を委員一同に諮ったところ全員一致で承認された。
- ・共催名義等使用に係るロゴマークの使用ルールについて、明文化した方がよいのではないかとの意見が出され、事務局で検討することになった。

(6) 議題5 活動報告

事務局より、「ホームページ」の最新情報について報告された。

- ・コンソーシアムの共催名義等の報告や会議の議事要旨等についてもホームページ上で公開した方がよいとの意見があった。
- 事務局より、「賛同団体(者)登録」については、10月26日現在、団体 198、個人 74、合計272であるとの報告があった。
- その他、次のような意見が出された。
- ・調査研究報告書についての経過報告会を開催してはどうか。

(7) 議題6 「コンソーシアムの今後の活動」について

事務局より、今後の取り組みとして、復興推進員とのコミュニケーションを図り、効率的に情報収集・発信をし、また、調査研究も充実していきたいとの説明があった。

- ・復興推進員と事務局が常に綿密に連絡をとり、いつでも情報がでてくるような仕組みを作るべきとの

意見がだされた。

事務局から今年度のシンポジウムについては、現在、日時・会場・内容等について検討中であるとの説明があった。

・シンポジウムはお祭りのようなイベントではなく、コンソーシアムのコンセプトを大事にしていくために何をすればよいのかを優先して考えるべきとの意見が出された。

事務局より、コンソーシアムが何を指すのか、何を具体的に取り組んでいくのか、これからの議題は何なのか等を議論するようなシンポジウムの開催を検討したいとの説明があった。

(8) 議題7 「文化審議会文化政策部会(提言)」について

文化庁 文化部芸術文化課長より、提言「最近の情勢と今後の文化政策」についての説明が行われた。

(9) 議題8 「東アジア共生会議 2012」について

事務局より、平成24年12月15, 16日に仙台市で開催される 「東アジア共生会議2012」について、本コンソーシアムも共同主催者として参加し、広報面で協力する旨の報告があった。

(10) 連絡事項 「次回の運営委員会」について

事務局より 第3回運営委員会は平成25年2月下旬を予定し、各委員の日程を調整し、確定したいとの説明があった。

以 上